

課 題	クマ剥ぎ被害箇所でのヒノキアスナロ複層林への誘導					開発期間 令和元年度～5年度 (前開発期間) (28年度～30年度)				
開発箇所	新潟県東蒲原郡阿賀町古岐国有林	担当部署	下越森林管理署	共同研究	—	技術開発	(3)			
現状と問題点	当署管内の阿賀町と阿賀町に隣接する新発田市赤谷地区では、民有林、国有林ともにツキノワグマによるスギ立木の剥皮被害が深刻な状況にあり、根元が腐り、素材としては2番丸太まで商品価値のない立木が見受けられ、経済的な損失が大きい状況である。 このクマ剥ぎを受けにくい林分への転換を検討する必要がある。									
開発目的 (数値目標)	ヒノキアスナロは東北地域や新潟県内においてもクマ剥ぎ被害が見受けられないことから、クマ剥ぎ被害区域における造林樹種として適している可能性がある。このことから、前期課題ではスギ・ヒノキアスナロの複層林(2段林及び択伐林型)を目標林型として、スギの択伐後にヒノキアスナロを樹下植栽するとともに、植栽木の成長量調査プロットの設定、被害木伐採前後の光環境の調査等を実施した。 本課題では、ヒノキアスナロの成長及び光環境等について調査を行い、スギ・ヒノキアスナロの複層林(上層木:スギ、下層木:ヒノキアスナロ)への誘導手法を検証する。 (参考) 中～長期と短期の課題が混在しており、両者を一つの課題で進めることは困難ではないか等の技術開発委員会及び林野庁部会からの意見を踏まえ、当初予定していたクマ剥ぎ被害防止状況調査については、スギ上木のクマ剥ぎ被害防止テープによる被害防除の可能性を調査することを目的としたものであるが、同対策による効果を認める報告もされていることから、本課題からは切り離し、新潟県ツキノワグマ管理計画に基づく生息密度等の推移も把握しながら、別途取り組む考え。									
開発方法	平成30年秋にヒノキアスナロを樹下植栽した林分において、次の取組を実施する。 ①調査プロットを当初設定の5箇所から7箇所に増設し、毎年度、苗高及び根元径を計測し、成長量を調査 ②獣害、雪害の有無を調査 ③光環境の調査									
年度別計画及び経費	令和元年度		令和2～4年度			令和5年度				
	1 生長量及び獣害・雪害調査 2 光環境調査		1 生長量及び獣害・雪害調査 2 光環境調査			1 生長量及び獣害・雪害調査 2 光環境調査 3 とりまとめ				
	1,500千円		千円			千円				
(技術開発委員会における意見)										

- (注) 1 課題欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入する。
- 2 技術開発目標欄には、国有林野事業における技術開発目標(長官通知)の3(1)～(3)のうち、該当する目標の番号を記入する。
- 3 現状と問題点欄には、他の機関が行っている技術開発との比較等も含めて記入する。
- 4 開発目的欄には、開発目的及びコスト削減等について民間業者が取り入れているコスト等と比較し、できる限り数値を記入する。
- 5 開発方法欄には、実施に当たっての取組方法等を記入する。
- 6 年度別計画及び経費欄の経費欄は、課題にかかる経費を記入するとともに、任意の様式で積算根拠を添付する。
- 7 課題設定に当たって引用した参考文献、数値目標を設定した理由及び計算根拠等の参考資料を添付する。